日本の子どもの詩

愛媛

日本作文の会編

日本の子どもの詩

愛媛

日本作文の会 編

岩崎書店

日本作文の会
日本の子どもの詩 38
岩崎書店　昭59
110p　21cm
内容：38　愛媛
〈分〉911

日本の子どもの詩　38　愛媛

一九八四年七月二五日　初版発行

編　者　日本作文の会
発行者　大川松利
印刷所　株式会社　K・M・S
　　株式会社　金羊社
製本所　小高製本工業株式会社

発行所　岩崎書店
東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八一二―九一三一(代)

©1984 Nippon Sakubunno kai
ISBN4 - 265 - 93838 - 8
—Published by IWASAKI SHOTEN. Tokyo, Japan—

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの〝わらべうた〟）としても、大きな意味がありましょう。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「愛媛編」であります。どうぞ、ひとつひとつていねいにお読みください。

日本作文の会

もくじ

1918
〜
1945

8 新年
風
カニ
お月夜
9 わた雪
つばめ
真白い花
10 ほたる
あかちゃん
れんげそう
11 さる
ゆうびんやさん
風
冬の朝
12 夜の風
蝶々
さくら
13 肥をになって
春がきた
淋しい
14 赤いいちご
夕方
15 ふゆ
弟
藁きり
16 春
豆取り
17 先生
手品
18 草けずり
株切り
19 廻旋塔
麦こぎ
朝
20 撒水
梨山

1945
〜
1959

22 あめ
しゃぼん玉
太陽のあし

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

空をみながら
23 四年の手紙
なえとり
24 先生
お母さん
25 お金
畑うち
ちゃばしら
26 おかあさん
27 水くみ
サイレン
28 ハト
だんだん畑
29 手紙
だるもち
30 麦の草とり
31 母
32 たうえ
おとうちゃんのまくら
かえる
33 まさよさん
大きな声
34 母の手
くわつみ
足
山（石墨登山より）

35 麦中うち
36 おふろ
さけのみ
37 むしめがね
もみじ
38 もみすり
夜道
39 おかあさん
母ちゃん
40 やぎの子
くま
私のうち
41 台風
父
42 稲穂
やきいも
43 ゆき
はいたみ
お母さん
44 子うしの目
45 水くみ
えび
46 ちちしぼり
ひろしま
47 すずめ
雨ふり

百点
48 電気あんま
だいこん
49 ポスト
父
50 赤インク
牛も馬もいない村

1960
〜
1969

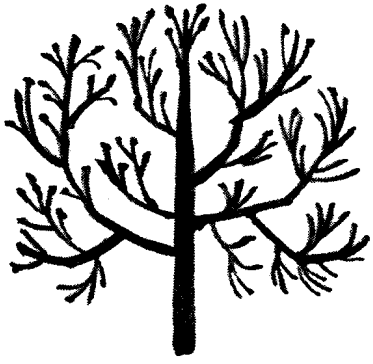
52 雨の日
きんもくせい
花やさん
53 ひよこ
のこるんじゃなかった
54 すもう
あゆ
一年生
55 朝
くさのみ（文集名）
56 やぎ
大くさんの音
57 牛
ふろたき
58 ぼくの学校
くろいくし
舌
あめの日
59 テレビ
父のたより
60 したじき
小川
61 さむいかぜへ
池
よる
ばった
62 おとうとのねがお
ねこ
63 池
車のあとおし
64 山へいそぐ
けがをした時
65 みかん
おとうちゃん
66 せんたく
手術
67 さむいかぜへ ゆきへ
ゆきへ
68 本をよんだともちゃん
とうちゃん

69 おとなになったら
とうちゃんのまくら
あくび
70 えんぴつとぎ
ぶた

1970〜

72 はと
ちゅうしゃ
73 つばめ
こうちょう先生のおなか
習字
74 よぼうちゅうしゃ
一人ぼっち
75 杉切り
母の日
76 あじさい
77 雨の花
時
78 あさがお
はなび
ぼく およげたんだよ
79 花火
ひまわり
80 とうちゃんの手
初めての手紙
アマリリス
81 がんばったやご
せんこう花火
82 すみれ
かえる
朝顔
83 ねむの木
最後の夏休み
84 夏の終わり
水泳大会
85 石の碑
夏
86 虫
87 とうもろこし
あき
88 むく鳥のゆめ
かみひこうき大会
89 リレー
おかあちゃん
あべ牛（あめ牛）
90 子うさぎ
みかんちぎり
91 青海島

93 夏の思い出
94 ねこ
95 うどとり
96 戦争を考える
97 真赤な夕日を浴びて
98 山仕事
99 土の道はなくなった
100 がっこうごっこ
101 きしゃにのった
102 先生のあくび
103 タロとジロ
104 自転車
105 おしゃれ先生
106 太陽のふとん
107 お母さんのなみだ
110 へ
にいがたへ行く父
水船
かわいそうなミー
二十一世紀
つき合い（闘牛）
冬の石鎚
冬の瀬戸内
*
あとがき——愛媛県の児童詩指導の歩み
この本の編集をした人たち



1918～1945
（大正7年）　（昭和20年）

ここからは、
大正時代から
戦争が終わるまでの
子どもの詩。
童謡のようなものから、
だんだん詩らしい詩になっていく。

新年

坂本邦住　小3

新年新年やってきた
いつのまにかやってきた
ゆめのあいだにやってきた
来年兎(うさぎ)の年である
ぴょんぴょんはねて
よろこべよ
兎の年で
はねる年
子どものすきな兎年

東宇和郡土居校

風

越智浅市　小4

ふくふく風が
とぶとぶしばが
ひらひらと

あおぞらたかくあがる
ああ
おもしろい
おもしろい

越智郡日高校

カニ

イズミ　モリシゲ　小1

カニハ　ドウシテ
ハサムノ
サワッタ　モノ　ホド
ハサムノヨ
ハサムノヨ

東宇和郡惣川校

お月夜

二宮　敏　高1

美しい月夜
螢がりのささで

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

お池をまぜたら
お月様が
ばらばらにこわれた
黄金の玉が
一時にぱっとくだけ散るように
小さなかけらが
お池一ぱい
もうせん
しいた

東宇和郡山田校

わた雪

桧垣松茂　小4

ひらひらと
わたぎりが
ちらちらと
おどりこが
ひらひらと
とびまわる

越智郡日高校

つばめ

足立秀夫　小2

ぼくとこの　つばめは　はやい　つばめ
ひこうきのように　はやい　つばめ
あちらの　みちで　くりかえし
こちらの　かわらで　くりかえし
あちらへいったり
こちらへきたり
ぼくとこの　つばめは　はやい　つばめ

東宇和郡下宇和第二校

真白い花

尾藤富子　高1

小さなつめたいお部屋に
真白いお花を一輪さそう
貴方(あなた)も一人私も一人
真白い花は優(やさ)しい
可愛い歌を静かに

口ずさんでくれるだろう

新居郡西条校

ほたる

兵頭幸恵　小4

ほう　ほう　ほうたる　こい
おこしに　ちょうちん　ぶらさげて
なあにを　そんなに　さがすのか
ああまい　おちちが　ほしいのか
ほう　ほう　ほうたる　こい
ああまい　おちちは　ここに　ある
げんじも　へいけも　みんな　こい
すい　すい　すいと　とんで　こい

東宇和郡下宇佐第二校

あかちゃん

岩見古太郎　小2

うちの　あかちゃん
まだ　一つ

ふえを　やっても
よう　ふかん
たいこを　やっても
よう　たたかん
まだ　まだ
なんにも　できません

東宇和郡惣川校

れんげそう

平松与志弘　高2

むらがった草の中に
れんげそうが二つ三つ咲いていた。
妹はうれしそうに声をあげて
手ばやくつみとった。
くるくると回しながら
いつまでもながめていると
日があたたかくなった。
まだそこここに
かわいいつぼみが
日に光っていた。

南宇和郡久良校

さる

藤田イク子　小6

さるを見て笑っている子
かわいいよ
さるも
子どもも
かわいいよ

新居郡角野校

ゆうびんやさん

青野誠一　小2

おおきなかばんをかけた
ゆうびんやさん。
毎日毎日はしってきて
家にはいってゆうびんと
お手がみいれて走って行く。
ゆうびんやさんはしんどかろう。

松山市八坂校

風

金子時市　小4

ごうごうふく
風君よ
おまえは
世界を
ふきまわっているから
なんでもよく知っているだろう
こないだとばした
しゃぼん玉に
おうたらかえれと
いうとくれ

新居郡橋校

冬の朝

中平　弘　高2

まくらもとの障子(しょうじ)が白くなって
外は寒そうだ

とび出してみると
小さな雲が
明るい空を飛んでいる
朝日が
いきおいよく白く照っている

東宇和郡遊子谷校

夜の風

近藤美幸　小3

風がふくふく
みんながねるころ
かたん　かたん
かたん　かたん
みんながねるのに
あつかまし
朝おきてみたら
ばけつの中に
こおりがひっついておった

新居郡角野校

蝶々（ちょうちょう）

三好ヨシ子　高2

私の好きな蝶々さん
きぬのもんつき身に付けて
花から花へひらひらと
さもうれしげに飛んでいる
蝶はお花が大好きで
私は蝶が大好きよ
ほんとうにかわいい蝶々さん
黄色に白の羽模様

東宇和郡山田校

さくら

宇都宮鶴美　小2

さくらがちるよ。
さくらがちるよ。
風がふくたび
雪のよう。

またふりかえって
見たときに
風がふいたか
またちった。

東宇和郡狩江校

肥をになって

松平与志弘　高2

畑は遠い
肥をになって家々の前を通る
ああくさい
ぺそっと唾を吐いた女の子
だが僕には
肥の臭いが分らない
ただあえぎながら畑の方を見る
午後の巡航船の機械の音に
あたりの空気が
急にざわざわし始めた
すると僕は元気が出た
ずっと見おろす段々畑に

もう若い麦が一杯だ

南宇和郡久良校

春が来た

岡本春雄　小4

れんげ
たんぽぽは
野原に
すみれは
石がけに
さきました
川のしょうぶは
そよそよ
ゆれている

東宇和郡狩江校

淋しい

高松百代　小6

学校のお庭に書きました。

「母様」と。
それと並べてもう一つ
「母様」と。
そして終わりに書きました。
「淋しい」と。

東宇和郡狩江校

赤いいちご

森下茂雄　小4

ぼくはいちごがだいすきだ
赤いいちごは
おいしいな
うちの畠に植えたのが
ちょっともたべずに
なくなった
それからいちごは
もうならぬ
僕はほんとうにつまらない
青いはっぱがあるばかり

松山市東雲校

夕方

幸田重市　小6

荷馬車が通る
荷馬車が通る
夕方だ
夕やけだ

からの荷馬車が帰って行く
足を早めて帰って行く
夕方だ
夕やけだ

からの荷馬車の左右には
秋の草が一ぱいだ
夕方だ
夕やけだ

南宇和郡久良校

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com